



TITLE:

## 社会研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

川村, 俊蔵; 河合, 雅雄; 東, 滋; 鈴木, 晃; 森, 梅代; 足澤, 貞成

---

CITATION:

川村, 俊蔵 ...[et al]. 社会研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1981, 11: 15-16

ISSUE DATE:

1981-12-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163008>

RIGHT:

究, 51, 351-355。

#### そ の 他

- 1) 小嶋祥三(1981): 遅延反応(delayed response)と前頭連合野。第19回 生理心理学・精神生理学懇話会講演抄録集, Pp. 8-17。

#### 学 会 発 表

- 1) チンパンジーにおける人工言語の習得。  
その1. 言語表出  
室伏靖子・浅野俊夫・松澤哲郎  
小嶋哲也・藤田和生・久保田競  
長尾 真・神尾昭雄  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 347 (1980)
- 2) チンパンジーにおける人工言語の習得。  
その2. 言語受容  
室伏靖子・浅野俊夫・松澤哲郎  
小嶋哲也・藤田和生・久保田競  
長尾 真・神尾昭雄  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 348 (1980)
- 3) チンパンジーにおける人工言語獲得  
浅野俊夫  
日本行動分析研究会シンポジウム  
(1980)
- 4) ニホンザルにおける行動対比  
浅野俊夫・岩脇三良  
日本動物心理学会第40回大会(1980)
- 5) ニホンザルにおける報酬の遅延間の選択  
矢口 敬・浅野俊夫  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 275 (1980)
- 6) 遅延反応(delayed response)と前頭連合野  
小嶋祥三  
第19回生理心理学・精神生理学懇話会  
(1980)
- 7) アカゲザルの前頭前野ニューロン活動と遅延反応  
小嶋祥三・P.S. Goldman-Rakic  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 43 (1980)
- 8) アカゲザルの前頭前野切除からの回復: 予備的研究  
小嶋祥三・P.S. Goldman-Rakic

日本動物心理学会第40回大会(1980)

- 9) ニホンザル乳幼児における感覚性強化 — 共変強化スケジュールと時間配分の検討 —  
松澤哲郎  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 277 (1980)
- 10) ニホンザルの奥行視の発達に関する研究  
辻敬一郎・林部敬吉・原 政敏  
松澤哲郎・中藤 淳・高崎敏治  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 132 (1980)
- 11) ニホンザルの異質見本合わせにおける刺激統制  
藤田和生  
日本心理学会第44回大会  
発表論文集, 291 (1980)
- 12) ニホンザルの見本合わせ学習における刺激統制  
藤田和生  
日本動物心理学会第40回大会(1980)

#### 社 会 研 究 部 門

川村俊蔵・河合雅雄  
東 滋・鈴木 晃  
森 梅代<sup>1)</sup>・足澤貞成<sup>2)</sup>

#### 研 究 概 要

- 1) ニホンザル地域個体群の研究 — 木曾  
川村俊蔵  
木曾研究林予定地において, 3個の大型群と1個の小型群の遊動ならびに群間関係に関する調査を行っている。
- 2) ニホンザルの社会生態学, とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造  
東 滋・足澤貞成  
ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で, 遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査を行っている。
- 3) ニホンザルの地域個体群の動態に関する研究  
鈴木 晃  
房総半島を中心として, ニホンザルの地域個体

1) 教務職員 2) 教務補佐員

群の土地利用、個体群動態、遊動におけるスペーシングの問題、オスの群れの離脱等に関する社会関係等の調査を継続している。

#### 4) 猿害の発生とその防止の研究

川村俊蔵・鈴木 晃

農業者にとっても、ニホンザルの保存についても、由々しい問題である猿害について、その発生機序を知り、防止対策を考え、人間とサルとの調和をはかるべく、日本生命財団の助成により、長野県上松町および房総丘陵で資料の採集ならびに防止実験を行った。

#### 5) ニホンザルの個体群の生活の維持に対する森林施業その他の human impact の影響の生態学的研究

東 滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら“自然”の側の反応を、異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と、同一地域の時系列的変化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地域と“森林開発”のすすんだ地域の調査を行った。

また平行して、おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

#### 6) スマトラにおける霊長類研究

川 村 俊 蔵

年報第10巻に紹介した、スマトラ自然研究計画に関し、日本学術振興会の派遣により2ヶ月、トヨタ財団助成のコンサルタントとして3ヶ月の2次にわたりスマトラに赴き、研究室の建設及び5ヶ年研究計画の第1年度としての基礎固めを行った。他に、これまでの継続として、*Presbytis melalophos* のとくに行動面を中心とする地方変異の研究を行い、たまたま生起した人殺し虎事件の資料も収集した。

#### 7) アフリカにおける現生および化石霊長類に関する学術調査

河 合 雅 雄

本調査を科学研究費(海外学術調査)によって行った。特にカメルーン共和国カンボ地区において、星野次郎(大学院生)との共同研究でマンドリルの野外調査を採食生態学的観点から行った。

#### 8) 原猿類の社会生態学的研究

東 滋

1980年度から81年度にかけての1年間、主にマダカスカル、ザイールにおいて野外調査を行っている。

#### 9) アフリカのチンパンジー、その他の霊長類の比較社会・生態学に関するまとめの研究

鈴木 晃

#### 10) ドリルの生態学的研究

森 梅 代

カメルーン共和国北西部のエジャガム地方で、ドリルの遊動状況、食性、音声活動などについての研究を行った。本調査は丸橋珠樹(大学院生)との共同で行われた。(科学研究費海外学術調査)

#### 総 説

- 1) 河合雅雄(1980): 動物行動学・動物社会学と精神医学。“精神医学”, 上巻(新福, 島蘭編) pp. 122-130, 金原出版, 東京。
- 2) 河合雅雄, 沢田允茂(1980): “動物と人間” 思索社, 東京。
- 3) 鈴木 晃(1980): 房総半島の孤島性とその文化の研究。“冬虫夏草” No. 15 pp. 21-43。

#### 論 文

- 1) 鈴木 晃(1980): ニホンザルとチンパンジーのフンの分析。Study of Droppings, 2(1), 11-38。

#### 学 会 発 表

- 1) 霊長類の社会構造の可塑性に関する一考察  
鈴木 晃  
第34回日本人類学会日本民族学会連合大会(1980)

#### 変 異 研 究 部 門

野澤 謙・和田一雄  
庄武孝義・峰澤 満

#### 研 究 概 要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究  
野澤 謙・庄武孝義・川本 芳<sup>1)</sup>  
ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子

1) 大学院生